

# 総合文化部の力作、復興の灯りとなる

■ 8月7日（木）、総合文化部の生徒たちが、半年以上かけて力を合わせて描き上げた灯籠絵が、陸前高田市の伝統行事「うごく七夕」の山車に飾られました。遠く離れた被災地のお祭りを、私たちの生徒の作品が彩ったのです。

○このつながりを実現してくれたのは、本校の千葉優教諭。陸前高田市出身で、小さい頃からお祭りに参加してきた千葉先生が橋渡し役となってくれました。当日、山車に飾られたすべての灯籠絵は、夜になると照明に照らされて一段と輝き、総合文化部の作品もほかの山車とは一味違う存在感を放っていたそうです。道行く人々の目を引き、感動を与えることができたと思っています。この取り組みは、東日本大震災の復興支援としても高く評価され、新聞などのメディアでも紹介されました。子どもたちの一枚一枚の絵が、被災地の皆さんの心に、そして見てくださった多くの方々に、温かい光を届けることができたことを、心からうれしく思います。

